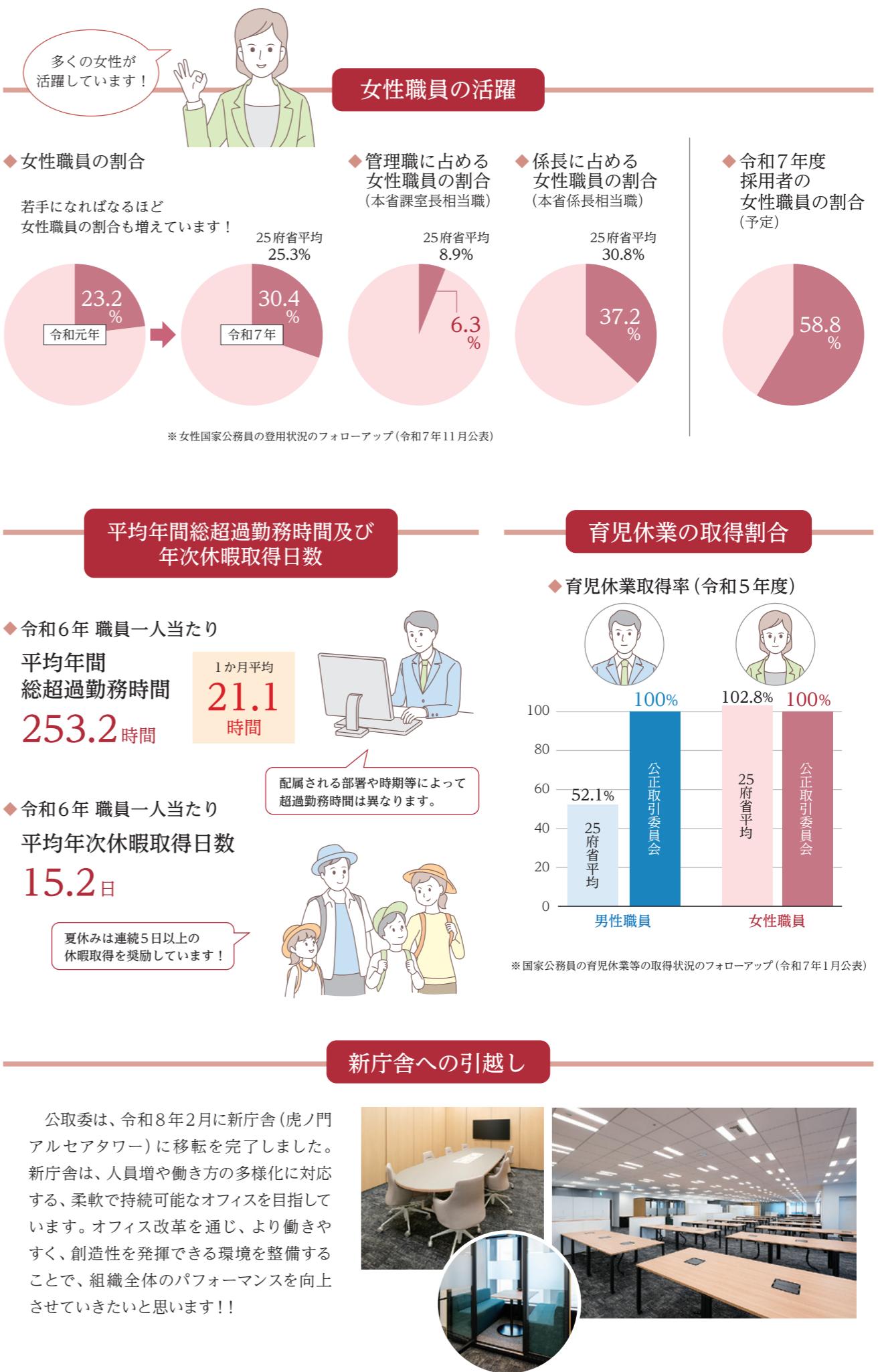
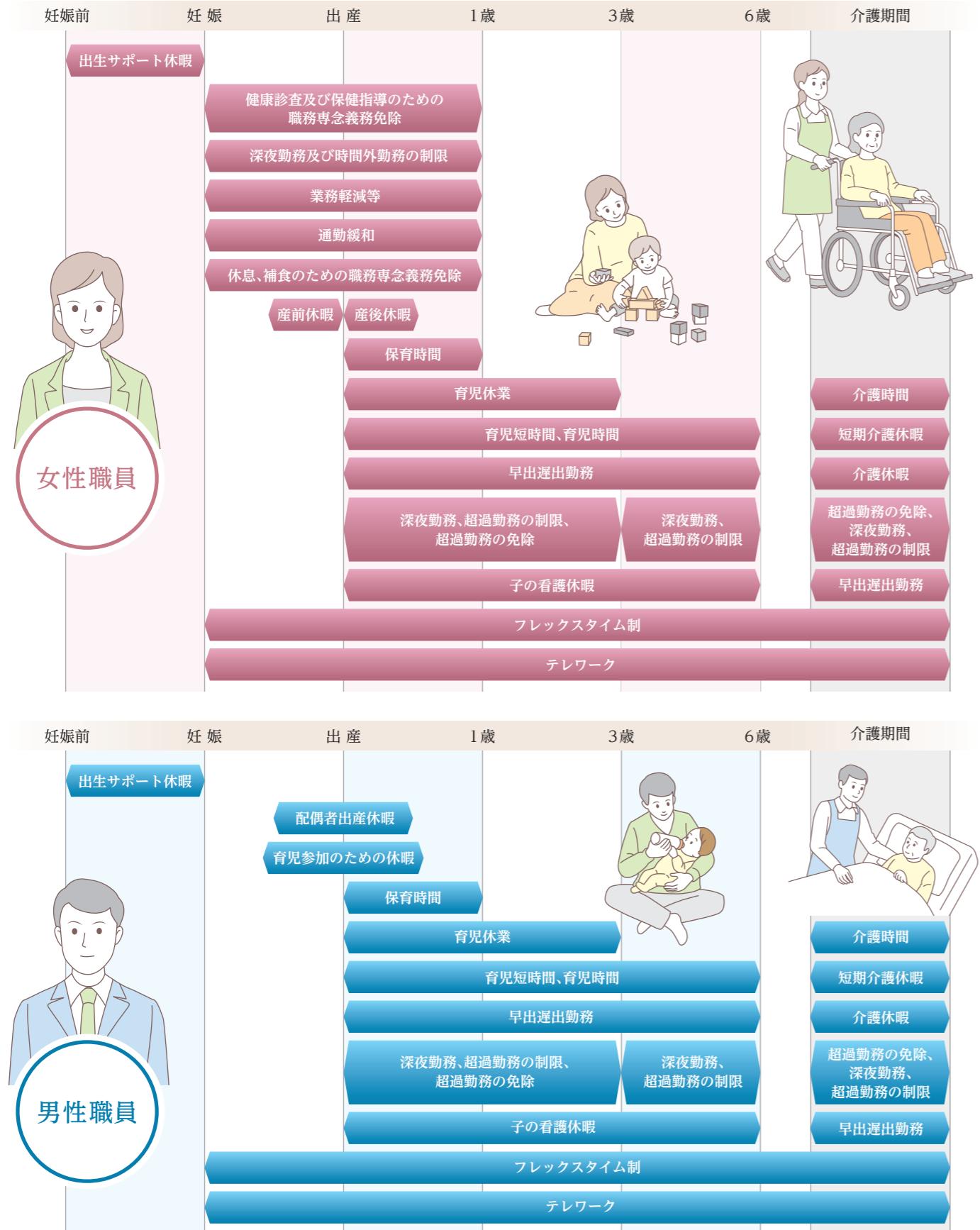


育児・介護の両立支援制度の内容と利用可能期間

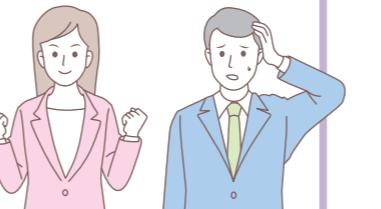


QUESTION 入局してからギャップを感じたところは？

- A ◆思つより電子化が進んでおり、業務効率化につながっているところ（公務員は押印文化、紙回議と思っていた）。
- ◆入局前はお役所の静かな環境を想像していたが、実際には雑談や熱い議論が多く、活気ある職場である。
- ◆法執行ばかりではない幅広い公取委の活動に驚いた。思ったよりも公取委の知名度が高く、一方で国民から期待されていることと公取委でできることや目指していることに乖離が垣間見えると感じた。
- ◆庶務が多いと聞いていたが、「1年目からこんな仕事できるんだ！」ということも多く、良い意味でギャップがあった。
- ◆1年目は庶務業務が多いかと思っていたが、相談対応に同席させていただけること。
- ◆勤務形態の柔軟さである。特にフレックスタイム制を活用している人が多く、日々の業務にメリハリがついているように思う。

QUESTION 失敗や成功も含め、印象に残っていることは？（法執行業務）

- A ◆令和7年6月に、フリーランス法で初めてとなる勧告を行ったこと。新しい法律かつ相手が大手企業ということもあり、SNS等でも目に見えて大きな反響があった。初めて携わった案件がこれほど世間から注目されるとは思っておらず、また、公取委が社会に与える影響力の大きさを肌で感じたため、印象に残っている。
- ◆勧告を公表した際に、記者レクといった普段経験することができない場に参加できたことが印象に残っている。
- ◆立入検査は精神的にも体力的にも大変だったが、その様子がニュースや新聞等で、大きく報道された際にはかなりやりがいを感じた。
- ◆実地調査において、上司が関係人に業務の運用が取適法に違反していないかという確認をされた際にその場で受け答え、補足を行っている姿に感銘を受けた。
- ◆初めての立入検査では、緊張のあまり書類を何度も書き間違えてしまったが、上司がうまくフォローしてくださり、その後は落ち着いて検査に挑むことができた。
- ◆規模の大きな事業者への勧告時、ネットニュースやニュース番組で事件が大きく取り上げられているのを目にして、自分たちの仕事の世間への影響力の大きさに驚いた。



QUESTION 失敗や成功も含め、印象に残っていることは？（政策立案業務）

- A ◆一般の方（フリーランス）からの相談対応。基本的に、相談者は何か不利益を受けて不満を抱えているため、冷静でない場合が多い。周りに助けてもらいつつ対応しても納得してもらえないことが多い中で、終話する際に「ありがとう」と言ってもらえたことは強く印象に残っている。
- ◆何も分からないまま法案審議に突っ込まれるという大変な体験をしたが、人生で二度はない大変さと言われるくらいのハードスケジュールをそばでみることができたこと、公取委の所管法の一つ「取適法」の改正に立ち会えたことは貴重な経験となった。
- ◆初めての電話での相談対応で多くのことを聞きそびれた。先輩や上司は聞くべきことをリストアップしているらしく、まねしなければと思っている。
- ◆スマホ法のパブコメの開始、下位法令の施行等新聞の一面に載るような法施行に半年もたないうちに携われた事は、本当に恵まれているなど印象に残っている。自らの手で起案した決裁が総長や、委員長まで届いたとき、国という大きな事象を動かそうとしているんだと（大げさですが）感じたときがあった。
- ◆金型を扱う企業の工場見学に参加させていただいたこと。中小企業の実態を知り、今後の業務へのモチベーションが上がったとともに、自分の仕事の重要性を知ることができた。
- ◆初めて電話対応をした際、対応が素晴らしいと褒められたことが印象に残っている。当時不安だらけだった私にとってとても自信になった。

QUESTION 職場の雰囲気や上司・先輩職員との関係性は？

- A ◆業務の相談がしやすく、日々助けてもらっている。いつか自分もこうなりたいと思える方たちに囲まれているので、恵まれた環境にいるなと思っている。
- ◆直属の先輩・上司は一息つけるような雑談をしてくれる。管理職の方が課室用にお菓子を置いてくれるくらい温かい方が多い。
- ◆忙しい課ですが、雑談も多く、和やかである。上司も、常に困ったことはないか？と気にかけてくれる。
- ◆相談しやすいし、反応してくれるだけでなく丁寧に向き合って考えてくれるし、頑張りを認めてくれたうえで改善方法を示唆してくださることや、考えることを教えてくださったり調べ方、着眼点を語ってくださるのがすごくありがたく日々勉強させていただいている。
- ◆職場はとても風通しが良い。皆さん、1年目の私のことをよく気に掛けてくれる。
- ◆とても相談しやすい雰囲気である。仕事で悩んだことは一緒に考えてくれ、味方でいてくれる。
- ◆1聞けば10答えてくださる丁寧な方ばかりで、毎日とても勉強になる。ちょっとした雑談も気軽にできる方が多い。



QUESTION 同期がいて良かったこと、助けられたエピソードは？

- A ◆自分ではまだ担当したことない業務でも、同じ部局の同期が担当したことがある業務だとアドバイスをもらえてとても助かった。
- ◆困ったことがあれば上司に相談するが、内容によっては同期にチャットして解決することも多い。多様な知識と経験が集まることで、何か問題が起きても、知識を共有し合い、スピーディかつ的確に解決できている。
- ◆仕事でよく関わる課室に同期がおり、疑問点のあるメール等はすぐに「ここどういうこと？」と聞くことができて助かっている。
- ◆就職で上京しこちらに友人が少なかったが、同期に恵まれ休日も楽しく過ごせている。
- ◆庶務業務等において分からないことや、システムに関するトラブルについての情報共有をしてもらったこと。
- ◆上司や先輩には聞きづらい初步的な質問でも教えてくれたり、仕事で失敗した時の気持ちをさらけだせる同期がいることで、精神的な余裕を持つことができた。
- ◆業務で分からないことを誰よりも気軽に聞ける。近況報告やちょっとした愚痴も言い合えて気持ちが楽になる。
- ◆誤ったメールを送ってしまったりしてもチャットからすぐに指摘が入ったりすること（笑）。

QUESTION 出勤時の服装は？

- A ◆女性はかなり自由な印象。男性は、常識的な範囲であれば自由度は高い（自分は夏はポロシャツ、冬はシャツにカーディガンを着ることが多い）。
- ◆男性は基本的にシャツ+パーカー等の上着や、ポロシャツで、室内で完結することにおいては基本カジュアルだと思う。
- ◆職場での服装は結構自由だと思う。夏場はクールビズが推進されていることもあり、ポロシャツの方が多い印象。
- ◆ブラウスを着たりワンピースを着たりしている。寒い時のためにカーディガンを一着置いており、ひざ掛けも使用している。
- ◆基本的にオフィスカジュアル（ブラウスにスカート等）であるが、立入検査の際はスーツを着用している。

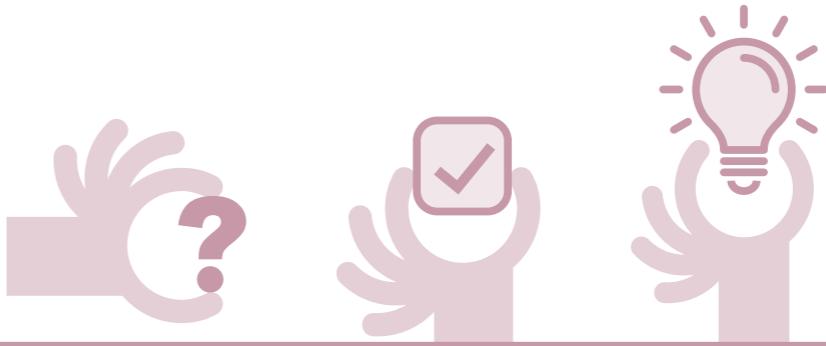
令和7年度入局の先輩からのアドバイス & メッセージ

学生時代にやっておくと良いこと

- 働く上で何を軸にしたいか?を軽くでもいいので考えておくことをお勧めします。
- なんでもいいのですが、何か目標や課題に向けて、人と密にコミュニケーションをとり、取り組む経験を積んでおくことが大事かと思います。
- 英語やパソコンをやっておくに越したことはないですが、自由な時間を満喫してほしいです。
- 就職する前に、様々な種類のアルバイトをしていろんな世界を知っておくべき。
- 自分にとって「何が辛いのか、何が耐えられるのか、何が楽しいのか」等、自分の幸福・辛苦についてを深掘りしておくことで、働く前の仕事選びにも役立つし、仕事の向き不向きや向き合い方を客観的に顧みることができるようになると思う。また、より多くの人と接し、自分が志願する特定の分野だけではなく、これまでどおりでは今後接しないかもしれない価値観や人生経験を持った人と会う経験をすることで、視座を広げること。
- 敬語やビジネスメールの練習。
- とりわけ学生に限ってやっておいた方がよいことは思いつきませんが、面接で緊張しすぎないための練習はやっておいて損はないかと思います。
- 何か一つでも一生懸命取り組んだことがあるといいと思います。頑張った経験が自信につながると思います!
- 趣味でもスポーツでも勉強でもいいので、何かに打ち込むことがいいと思います!
- 生活リズムは大きく崩さないほうが良い。早寝早起きを習慣づけておかないと、朝がしんどい。
- 就職活動に当たっては、まずは視野を広く持った上で、興味を持ったところがあれば、情報収集を積極的にするといいと思います。

これから就職活動をする方へ

- 私は職員のかっこよさに惹かれて公取委を志望しましたが、入局後の今でも先輩職員の仕事ぶりはかっこいいと感じます。魅力ある職場だと思うので、是非来てください。
- 一人一人が独占禁止法をはじめとする所管法令に向き合い、日々自分に何ができるか?を考えて働いています。楽しいです!ぜひお越しください!
- 就職活動もすごく大変だと思いますが、今後の人生に大きく関わることは間違いないので、悔いのないよう頑張ってください。
- 説明会に参加したりたくさん情報収集をして、自分にとってのメリット・デメリットの両方を踏まえた上で、自分に合いそうな環境を見つけることが大切だと思います。
- 説明会やイベントにはできるだけ多く参加して、選択肢の幅を広げることが大事だと思います。
- 自分の考えがその会社や団体の考え方、理念にあってるか等についてあらかじめ把握していると良いと感じます。
- 自分がどんな信念を持っているか見つめ直すことが大事だと思います。適度休息をとりつつ、思う存分頑張ってください。
- 就職活動は大変だと思いますが、将来を決める大事な活動なので、妥協せず自分が納得できるまで頑張ってください!
- 地に足をつけて、嘯くことなく、自分に正直に就活をして頂ければ幸いです。自分のありのままを受け入れてくれる場所は、働き始めても比較的居心地がいいです。
- とにかく自分で決めて自分が納得できるようにするのが一番大切だと思う。後悔の無いようにたくさん悩んでたくさん勉強して就職活動に臨んでほしい。



QUESTION どんな人を求めていますか?

A 公取委が扱う幅広い分野の経済活動について旺盛な知識欲を持って学ぶ姿勢、大企業や中小企業の従業員から一般の消費者まで様々な方と対話できるコミュニケーション能力、そして何より、公取委が行う競争政策に共に携わりたいという気持ちを持った方を待っています!

QUESTION 毎年の採用実績はどのようにになっていますか?

A 公取委では、年齢・性別・出身大学・出身学部等にとらわれることなく、採用を行っています。法学部や経済学部出身者が多いのか?との御質問もよくありますが、公取委職員の出身学部を見ると、法学部、経済学部の順に出身者が多いというデータはあるものの、文学部や理系学部等の出身者、大学院修了者も多数在籍しています。

過去5年の採用実績 ([]内は女性の内数)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度(予定)
総合職	6 [2]	9 [5]	8 [3]	6 [3]	8 [5]
一般職(大卒)	19 [9]	13 [7]	31 [21]	18 [11]	22 [12]
一般職(高卒)	5 [4]	4 [3]	7 [3]	5 [3]	3 [2]

※1 「総合職」とは、国家公務員採用総合職試験(院卒者試験、大卒程度試験)をいいます。

※2 「一般職(大卒)」とは、国家公務員採用一般職試験(大卒程度試験)をいいます。

※3 「一般職(高卒)」とは、国家公務員採用一般職試験(高卒程度試験)をいいます。

QUESTION 総合職と一般職で業務に違いはありますか?

A 公取委では、採用区分に関わらず、法執行と政策立案のいずれの業務にも携わります。総合職よりも一般職の方が法執行の業務に携わる機会が多い傾向はありますが、どの職種でも様々な業務を経験することでステップアップしていくことになります。

QUESTION 公取委の地方事務所で働きたいのですが、採用は行っていますか?

A 一般職(大卒程度)を中心に、各地方事務所等での採用も行っています。詳しくは人事院Webサイトに掲載される事務所ごとの採用予定者数を確認した上で、各地方事務所等への官庁訪問を行ってください。